

新型コロナウイルス 感染症の新知見について

- ・はじめに
- ・変異株について
- ・感染経路について
- ・後遺症について
- ・ワクチンについて

はじめに

こんにちは、
相双保健所長の
堀切です。

10月以降の相双管内では、新型コロナウイルス感染症新規患者の発生がなく経過しています。これも、皆さまがたの日頃からの感染対策が少なからず貢献していると思います。

令和2年初頭に国内で初めて新型コロナウイルス感染症患者が発生して以来、2年近くが経過しました。それまでに、当初考えられていた概念とは異なる、新たな知見も得られています。本日はこれらの新しい情報についてお話ししたいと思います。なお、今回お示しする内容はあくまでも令和3年10月までのものであり、今後、更に修正される可能性があることを、理解賜りたく、お願いいたします。



変異株について

- 今までに、さまざまな種類の変異株の発生が報告されました。しかし、現在の国内で検出されるウイルスはほぼすべて、デルタ株です。これは、**2021年9月初旬**から継続しており、最近では新たな変異株は検出されていません。さらに、現時点で、ワクチンの効果や感染力に影響を与える可能性がある、注目すべき変異株も見つかっていません。

感染経路について

- 当初、飛沫感染や接触感染が主な感染経路であり、空気感染も起こるかもしれない、と言われたこともありました。現在では、飛沫感染とエアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）感染が主な感染経路である、とされています。飛沫感染を防ぐためには、1メートル以上の距離を開ければおおよそ防げる、とされていますが、エアロゾル感染とは、1メートルを超えて感染を拡大させるリスクがあります。
- いずれの感染経路に対しても、換気は有効な対策となります。これから寒い時期がやってまいります、定期的な換気を行うことを推奨いたします。

ワクチンについて

- 既に、ワクチンの有用性は多くの報告で認められています。ワクチン接種が完了した人の場合、デルタ株に対しても、未接種者と比較して、感染を1/5以下、重症化を1/10以下に低減でき、二次感染リスクも半減すると報告されています。
- ワクチンの副作用の問題など、未解明の部分は残されておりますが、特に医療従事者に対しては、ワクチン接種が推奨されています。

参考文献

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第6.0版. 2021年11月2日

令和3年11月9日